

## ネットトラブルに対応する力を育てる情報モラル教育の一考察 —NHK for schoolを活用した道徳授業を通して—

### 1. 設定理由

スマートフォンの所持率が高まってきており、PC以外のタブレットやゲーム機でもインターネットを利用し、より児童にとってインターネット利用が身近なものとなっている状況である。ところが、家庭でネット利用の約束があるという児童は半数に過ぎず、ネット利用時に陥るかもしれないトラブルや危険に対して無防備である状況が浮かび上がってくる。ネットトラブルに対応する力を育てるためには、学校での情報モラル教育がより重要性を増していると言える。しかしながら、学校現場では情報モラル授業に対して苦手感をもっている教師も多い。

そこで、映像資料であり、授業準備に負担感が少ないNHKの番組資料を活用し、児童と教師意識の変容について考察を行うことで、ネットトラブルに対応する情報活用能力を育てる情報モラル授業について有効な手法を見出し、地域の情報モラル教育実践の一層の推進を図るため、本主題を設定した。

### 2. 研究仮説

実態調査をもとに、視聴覚教材によって具体的な事例を挙げて授業を行うことで、ネット上のコミュニケーションにおいても相手を尊重しながら行動することの大切さがわかり、危険回避を行うための具体的な方法を知りながら、判断力・情報活用能力を育成できるであろう。

### 3. 研究内容

ア) 児童及び教師の実態調査

イ) 身近に起こりやすい、切実感をもった事例を扱った映像資料を使って、協力校において情報モラル教育の授業実践

ウ) 児童及び教師の感想や意識の変容からの考察

### 4. 結 論

(1) 情報発信に関する実態調査をもとにした授業実践を通して、映像資料が有効であり、ネットトラブルに対応する児童の判断力・情報活用能力を育成することができた。

(2) 映像視聴に加えて、話し合い活動による葛藤場面の疑似体験を通じたことで、より具体的に思いを深めることができた。

(3) 映像教材であるがゆえに、教師も児童も取り組みやすく、教師が苦手とする情報モラル授業を地域に広げる一助となった。

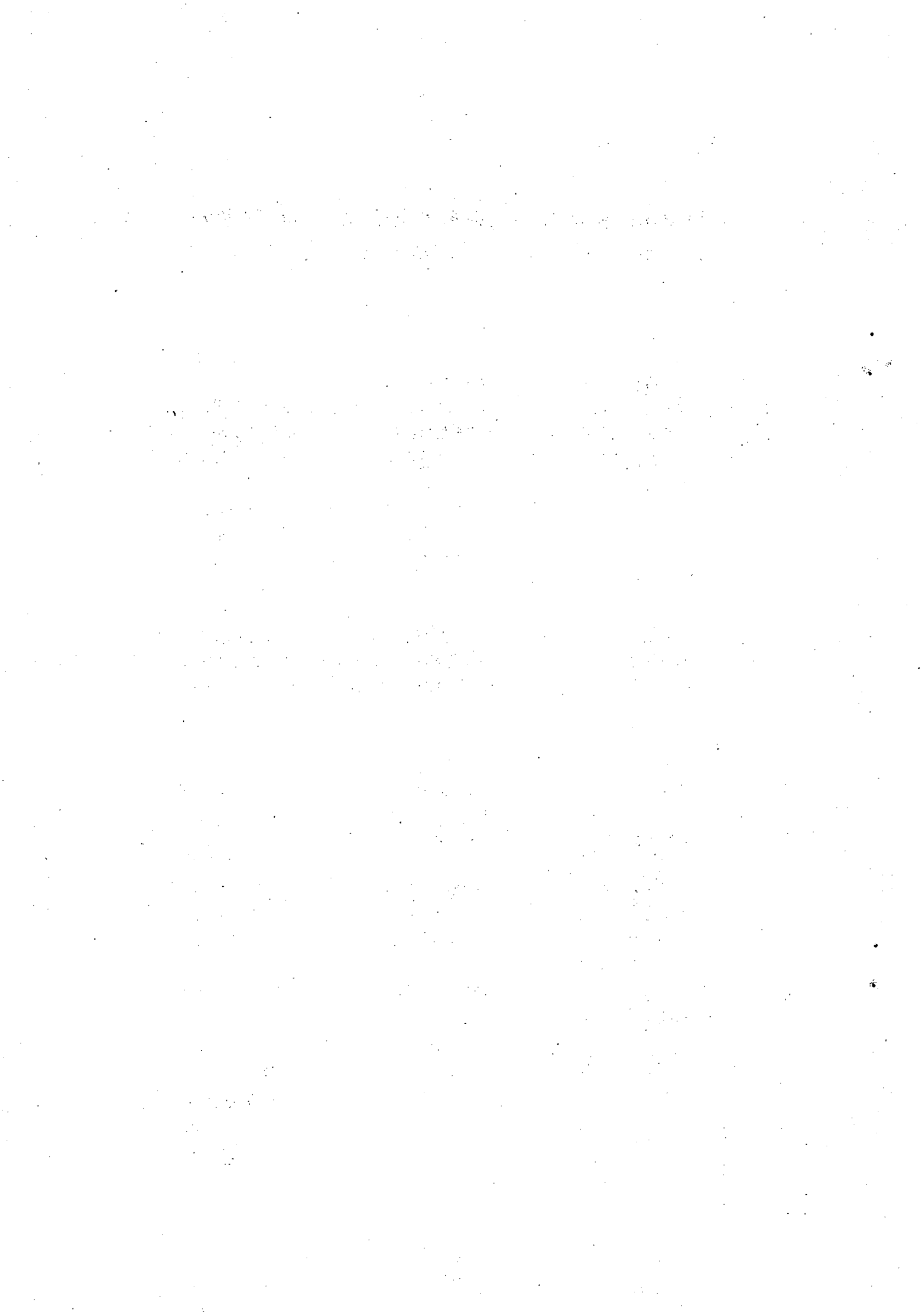
東総支部

旭市立嚶鳴小学校

小田 和史

旭市立萬歳小学校

青柳 聡史



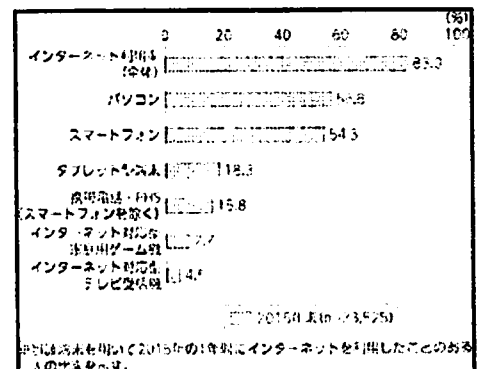
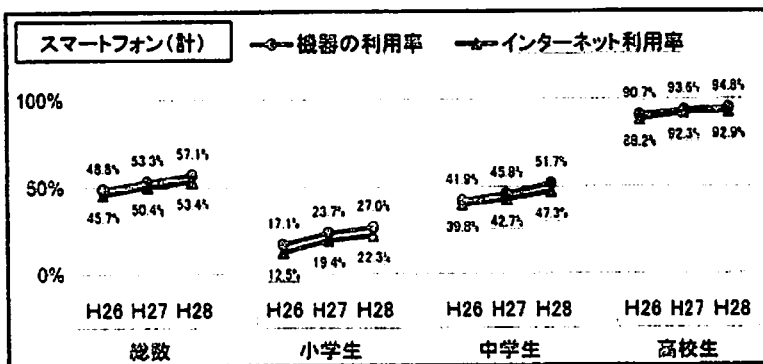
# ネットトラブルに対応する力を育てる情報モラル教育の一考察 -NHK for schoolを活用した道徳授業を通して-

## 1 研究テーマ設定の理由

### (1) 今日的な課題から

総務省発行の平成28年版「情報通信白書」によると、2015年末のインターネット利用者数は、2014年末より28万人増加して1億46万人（前年比0.3%増）、人口普及率は83.0%となった。また、端末別インターネット利用状況を見ると、「パソコン」が56.8%と最も高く、次いで「スマートフォン」（54.3%）、「タブレット型端末」（18.3%）となっている。インターネット利用でのスマートフォンとパソコンとの差がますます縮小し、インターネット利用はスマホのみという若者も増大している状況である。

2016年11～12月に満10～17歳の5000人を対象として実施した「青少年のインターネット利用環境実態調査」の速報結果によると、小学生のスマートフォン保有率も徐々に高まり、4人に1人の割合を超えるところまで来ている状況である。



通信速度の高速化が進んだことで、パソコンだけでなく児童に身近なゲーム機からさえもインターネットサイトに気軽に接続することがますます容易になってきており、インターネットは、情報収集やコミュニケーションのためのインフラとして生活に根ざし、もはやなくてはならないものとなっているのである。

しかし、その便利さの反面、あまりにも急激に高度情報化社会の波が押し寄せ、広がったために、インターネットを介した犯罪や事件に児童・生徒が巻き込まれる案件が増え、学校現場でも友人間のトラブルが起こるなど危機が増大している。また、SNSの普及により、不特定多数の他者との情報のやりとりが日常化し、従来のメールなどによる校内型のトラブルから校外へとトラブルの範囲が広がりつつある状況も見られる。

こうした社会的要請を受け、学習指導要領解説では、総則編、道徳編において情報モラル学習の充実が明記され、全ての教員が指導する能力を身に付け、実践することが求められている。しかし、未だ年間計画に情報モラル授業が組み込まれていない学校現場もあり、また、教師からは、どのように授業を進めていけばいいのか分からないという声も聞こえてくるのが実情である。ネット社会の広がりや速さ故に、児童の機器活用力に学校の教育力が追いつかない現状が存在するのである。

## (2) 本地区の現状から

### ①児童の実態

〈東総支部2市の5, 6年生384名に, アンケート調査を実施〉→結果次ページ

◇全国調査と同様に, スマートフォンの所持率が4分の1強である。

◇スマートフォン以外でも, 7割の児童がインターネットを利用しており, PCに限らず, タブレットやゲーム機を使用し, ネットに触れている状況である。

◇スマートフォンを持っていない児童も, 所有希望は高い。

◇スマートフォンを持っている児童のうち, 半数以上はライン等のコミュニケーションツールとして使用している。また, 現在を持っていない児童においても, ライン等使用してみたいという意欲は高い。

◇家庭でスマートフォンやネットを利用するときの約束(ルール)があると答えた児童は, 半数に過ぎない。



スマートフォンの所持率が高まってきており, PC以外のタブレットやゲーム機でもインターネットを利用し, より児童にとってインターネット利用が身近なものとなっている状況である。ところが, 家庭でネット利用の約束があるという児童は半数に過ぎず, ネット利用時に陥るかもしれないトラブルや危険に対して無防備である状況が浮かび上がってくる。約束がある家庭においても, 「時間・時刻制限」や「課金」についての意識は高いものの, コミュニケーション時の対応についてやネット利用時のトラブル回避についてはあまり触れられていない状況である。ネットトラブルに対応する力を育てるためには, 学校での情報モラル教育がより重要性を増していると言える。

### ②指導者の実態

〈授業実践への協力をいただいた教員へのアンケート調査〉→結果 p 4

◇情報モラル授業への苦手意識が高い。

◇情報モラル授業はおもに道徳の時間内で実践されているが, 外部講師への授業依頼も多い。

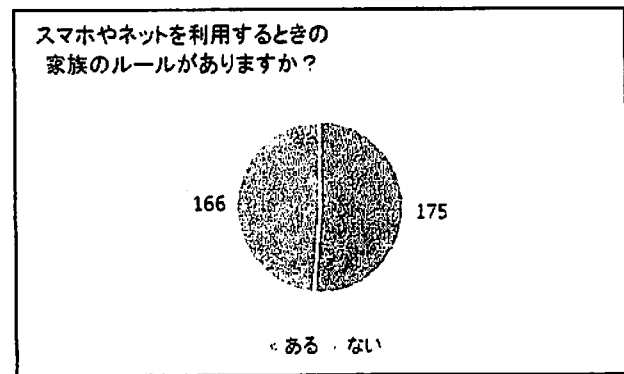
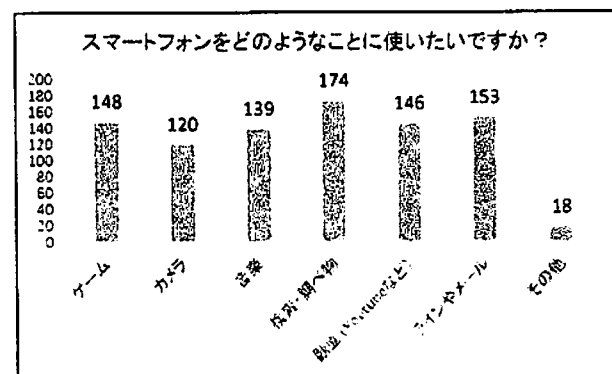
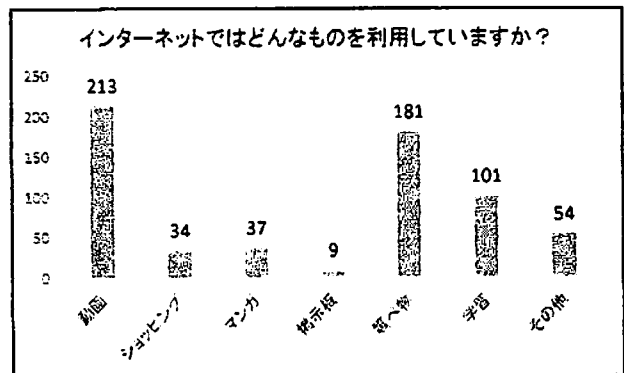
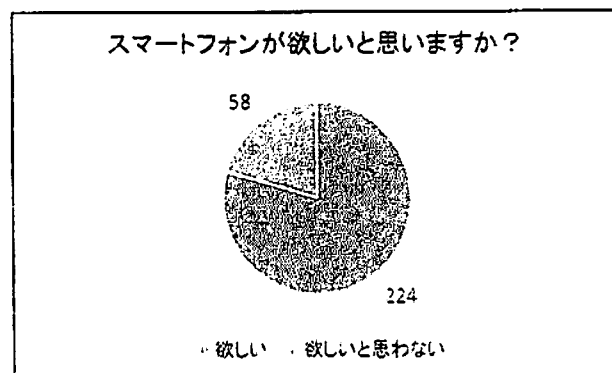
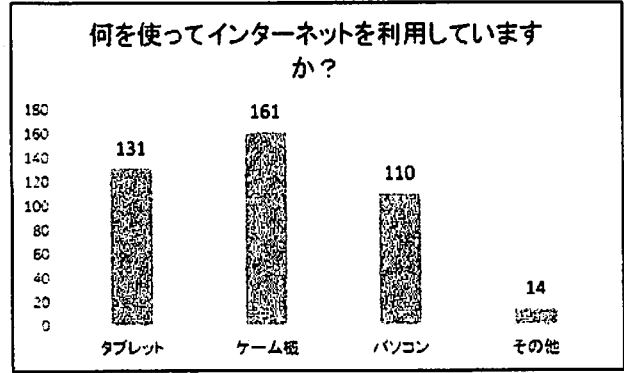
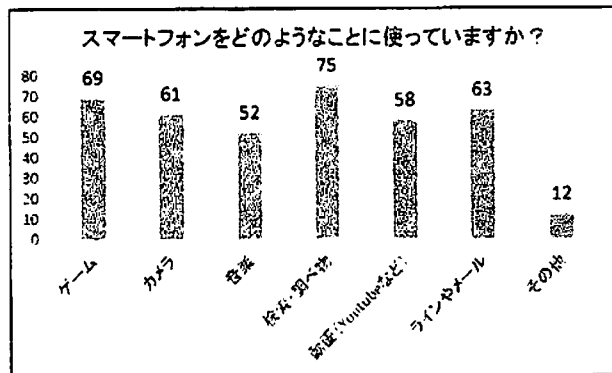
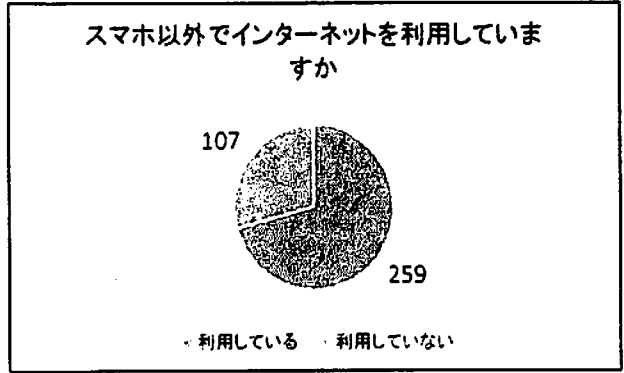
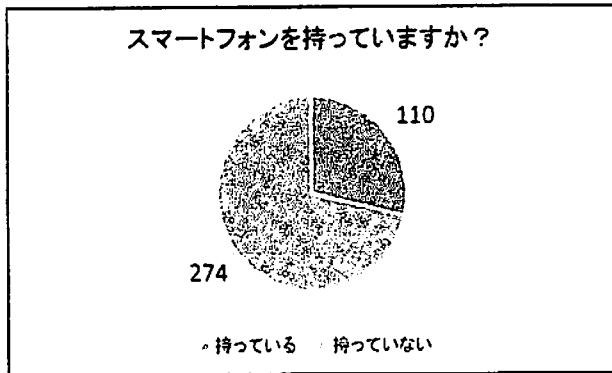
◇情報モラルの授業用教材では, 読み物資料よりも, 映像資料の活用率が高く, インターネット資料も活用されている。



教師の苦手意識の一因として, 記述にもあるとおり, 「大人以上に児童の方が詳しい場合があるため, 指導しづらい。」「新しいアプリやSNSが次々と生まれ, 対応しきれない」という現状もあげられている。記述式回答では, 指導事項の要望や困り感が多くあげられていることから, 教師自身の対応したいという意識は高いものの, 学級でいつ起こるかも知れない身近なネットトラブルに対して, どう指導していけばよいか, 何を素材にすれば情報モラル授業が心に響くか悩み, 苦手感を抱いている様子も見え隠れしている。

地域の情報モラル教育実践の一層の推進を図るため, 映像資料であり, 授業準備に負担感が少ないNHKの番組資料を活用し, 児童と教師意識の変容について考察を行う。

児童用事前アンケート集計結果



スマホやネットを利用するときのルールがあると答えた児童のルール例

★(多かったルール)

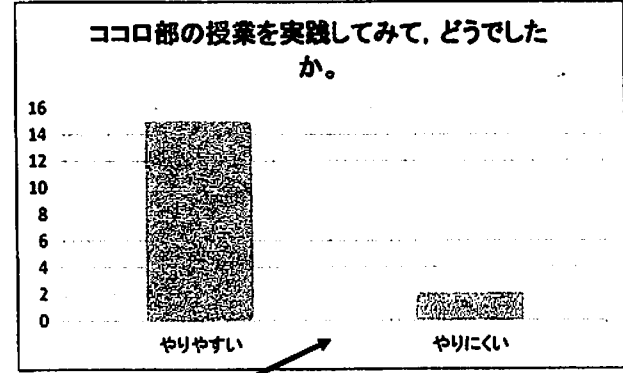
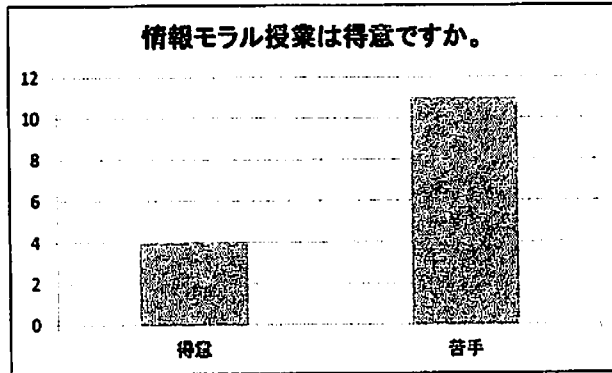
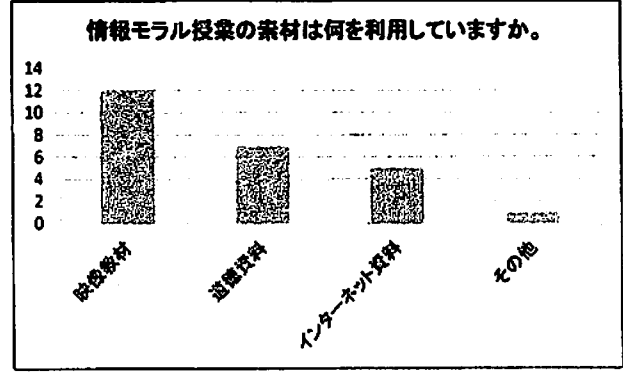
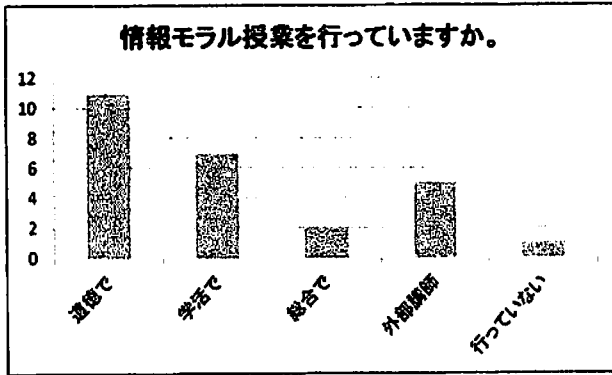
- ★使える時間制限。使える終了時刻制限。
- ★課金をしない。
- ★わからない画面が出たら、親に相談する。

(例)

- 自分の部屋に持ち込まない
- 親に言ってから使う
- 音量制限
- 知らない人とつながったり友達になったりしない
- 課金をしない
- 家の手伝いをする
- 部屋にこもらない
- ゲームは9時まで

- 2時間以上スマートフォンを使わない。
- 使う時間が決められている
- ネット上に個人情報を出さない。
- 9時より後は使わない。
- 親に断ってから登録や購入。
- 分からないことがあったら、すぐ親に報告。
- 夜10時になったらスマホをやらない。
- 1時間以上やらない。
- ネット上で知り合った人に個人情報を出さない。
- 中学生になるまで、LINEなどで友だちとつながること禁止。
- 夜遅くまで携帯をいじらない
- 人に許可を取って写真を撮る

教師アンケート集計結果



上記、ココロ部「みんなに合わせる友情」の授業実践の感想はなぜですか。

【映像資料のよさ】…多  
 ○映像のため、場面、状況がつかみやすい。 ○映像のポイントが絞っており、10分の内容なので、じっくり指導時間が取れる。  
 ○児童が映像に引き付けられる。音段、あまり発信しない子が意見を言うことができていた。どの子も自分なりの感想や考えをもつことができた。  
 【準備面の手軽さ】  
 ○指導のための環境(映像・指導計画等)が用意されている。 ○指導案もあり参考になった。  
 【子どもたちが考えやすい題材】  
 ○考えるポイントが、わかりやすい。子どもたちが考えやすい題材。児童が、自分たちが直面した(するであろう)問題ととらえてよく考えていた。  
 ○場面の想定がしやすく、本人になりきって考えられる。 ○前半・後半に分け、考えさせる場面がはっきりしており、わかりやすい。  
 ○内容が子どもたちの身近に感じられるものなので、自分の問題として考えることができる。  
 ○答えはなく、考えさせるようになっている。結末も、児童に想像させ、自分のこととして真剣に考えることができていた。(内面化ができる)  
 【その他】  
 ○子どもたちは実際のやり取りを見て、はじめは何も考えずスマホが欲しいと言っていたが、使い方やラインの使い方のルールが大切なことを学べ、感想が書けた。  
 ●スマホ等、個人での所有がないので実感がわかかなかつたようである。  
 ●正しいことをした子が、今度は仲間はずれにされてしまうという内容だったので、グループラインの怖さのほうが発見の印象として強く残ってしまった。  
 ●ただ、ラインの仲間ははずれの一つの方法として悪影響があるのではという心配もあった。

情報モラル授業で、どんなことを指導してほしいですか。指導しますか。

【ネットトラブル、スマホとの付き合い方】…多  
 ◆トラブル、事件の事例を挙げて、インターネット(スマホ)との付き合い方 ◆スマホやパソコンの正しい使い方ややってはいけないことを指導してほしい。  
 ◆小学生でも自分のスマホを持っていたり、親のものを自由に使ったりしているので、その使い方や危険性など、いじめにつながることも含めて指導したい。  
 ◆トラブルの事例紹介。子どもたちの身近に最も起こりうるようなこと。 ◆便利さの裏にある危険について指導。 ◆犯罪となってしまう例  
 【SNS、ネット上のコミュニケーション、発信と個人情報】…多  
 ◆個人情報の扱い・SNSの使い方・インターネットの活用の仕方 ◆インターネット上でのコミュニケーション  
 ◆自分や友だちの個人情報を流出させないための約束。ネットに情報がのれば、それは一生消えることがない。(拡散) ◆個人情報の扱い方  
 ◆ネットを利用することによって起こりうる友人関係の悪化。情報を発信、活用するうえで気を付けること。 ◆正しい情報発信の仕方、危険性  
 【情報の取捨選択、批判的思考力】

児童生徒のネット利用で、困ることはどんなことですか。

【友だち関係】  
 ◆いじめやトラブル。顔が見えず、相手の思いや気持ちがわからないまま傷つけるメール等々送ってしまうこと。  
 ◆人間関係トラブル、悪化(いじめ、仲間はずれ、もってない子への仲間はずれ感)。  
 【教師の苦手意識】  
 ◆大人以上に児童の方が詳しい場合があるため、こちらの指導がついていけない。 ◆新しいアプリやSNSが次々と生まれ、対応しきれない。  
 【保護者の理解】  
 ◆全保護者とネット利用の共通理解 ◆家庭により考え方が大きく違い、トラブルが起こっても和訳しにくい。  
 ◆ライン等のいじめ、生活の乱れについて、親が十分把握できていなかったり、把握していても自由にさせたりしていること。  
 【トラブルへの危機】  
 ◆真夜中など、時間に関係なく利用していること ◆危険なサイトへの立ち入り ◆使いすぎ(ネット依存)  
 ◆目の届かない範囲でネット利用することが多いため、何をしているか気づきにくい。 ◆写真等を気軽に載せてしまい、トラブルに合うこと。  
 ◆個人情報をもらってしまうこと。 ◆指導する際の教材 ◆知らない人とつながってしまうこと(連絡を取り合っ、実際に会ったりしてしまうこと)  
 ◆著作権を知らないうちに侵害してしまう ◆高額な請求(詐欺等)

### (3) これまでの研究経緯から

東総支部の情報・視聴覚部会では、2009年度より「情報モラル教育」の推進が急務との判断から、実践研究を行い、成果と課題を明らかにしてきた。本年度は、「判断力をより切実感をもって刺激できる場の設定」「授業実践数の増加」という前回の研究の課題を受け、構成している。

## 2 研究の目標と仮説

### (1) 研究の目標

情報発信に関する実態調査をもとにした授業実践を通して、児童の判断力・情報活用能力を育成する。

### (2) 研究の仮説

実態調査をもとに、視聴覚教材によって具体的な事例を挙げて授業を行うことで、ネット上のコミュニケーションにおいても相手を尊重しながら行動することの大切さがわかり、危険回避を行うための具体的な方法を知りながら、判断力・情報活用能力を育成できるであろう。

### (3) 研究の方法

ア) 児童及び教師の実態調査を行う。

イ) 身近に起こりやすい、切実感をもった事例を扱った映像資料を使って、協力校において情報モラル教育の授業実践を行う。

ウ) 児童及び教師の感想や意識の変容から考察を行う。

①対象：銚子市・旭市の小学生及び協力校教師。

②期間：平成29年7月～9月

③内容：NHK映像資料「ココロ部！みんなに合わせる“友情”」を用いた情報モラル教育の授業を行う。

④調査内容

a) 授業を実施する際の実態調査と、授業前後の児童の意識変容を比較するためのアンケート調査を行い、考察を加える。

b) 情報モラル教育の授業を行ったことの成果や今後の課題について討議し、討議内容を整理する。

### 研究に使用する教材

NHK for School ココロ部！

「みんなに合わせる“友情”」

<http://www.nhk.or.jp/doutoku/kokorobu/>

?das\_id=D0005130134\_00000



東総支部研究の経緯

	2009年度	2011年度
テーマ	情報モラル教育の導入学年についての一考察	情報モラル教育の推進についての課題
サブテーマ	携帯電話をテーマにした無償配布教材を利用した授業を通して	情報モラル教育の授業実践を通して
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話を使った情報モラルの授業は、児童の興味関心が高く、有効である。</li> <li>・授業を実施して、最も効果が高いのは中学年児童である。6年生にも、携帯電話所有率が高ければ高い効果を期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育の情報化」に関する文献研究を行ったことで、情報モラル教育の変遷や実態が明らかになった。</li> <li>・授業の事前・事後の実態調査から、児童の意識の変容と実態が明らかになり、情報モラル教育のますますの必要性が明らかになった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話所有者と非所有者、携帯電話経験者と非経験者についての分析と比較が必要である。</li> <li>・授業成果にスポットを当てたため、授業する側の意見や感想を取り入れられなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個人情報の流出」「情報の信憑性」「掲示板の書き込み」等、多機能から生じるモラルについての学習も必要になってくる。</li> <li>・課題を整理し、情報モラル教育を各学校の地域や保護者に対しても啓発していくための継続的な取り組みが必要である。</li> </ul>

	2013年度	2015年度
テーマ	情報化社会に対応した情報モラル教育についての一考察	インターネット上でのコミュニケーション能力を育てる情報モラル教育
サブテーマ	情報発信に関する児童の意識調査と授業の実践を通して	NHK for schoolを活用した授業実践を通して
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の扱いに気を付けるという情報を適切に扱うための方法を理解することができた。</li> <li>・事前・事後のアンケートから、個人情報の大切さがわかったり、どんな危険性があるのかという情報社会の怖さを知るという変容が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを使ったコミュニケーションツール(LINE)の長所と短所といった特性を理解することができた。</li> <li>・インターネット上でのコミュニケーションの取り方について、「相手の気持ちを考える」という意識をもつことができるようになった。</li> <li>・インターネット上でのやり取りの特性を理解したうえで、「使わない」のではなく、「気をつけて使っていこう」という積極的な姿勢が多くみられた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的に5年生で身につけるべき知識を精査し、6年生では中学校へむけて、ブログ等の情報発信に関する知識を学習していくことが必要。</li> <li>・事後アンケートで、「ブログは使わない」といった意見があがった。情報社会の怖さを知るという点で成果はあったが、情報社会の影の部分を理解した上で、正しく安全な使い方を理解し、積極的に情報社会へ参画していくという態度を育成していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の授業は、ネット上での適切なコミュニケーションを考える場のみだったので、身に付けた判断力を実践する場を設定する必要がある。</li> <li>・授業実践のサンプル数が少ないので、もっと多くの学校で授業をしたほうがよい。</li> </ul>



### 3 研究の考察

#### (1) 児童アンケート（情報発信・受信の意識変容の類型化データ）から

「メッセージを送るとき、どんなことに注意するか（発信）」「受けとったとき、どんなことが気になるか。（受信）」の記述式アンケートについて、授業前と授業後の記述を比較したところ、8つのパターンに類型化することができた。結果をグラフ化したものが次ページである。

ラインやツイッター等のSNS経験の有無でグラフを分けてみたところ、SNS経験ありの送信時①のグラフでは、2「変容なし（態度・心情→態度・心情）」がいちばん多く、次いで4「心情の深まり、変容」、3「知識→態度・心情への変容」、6「知識が増えた」が多くなっていた。また、SNS経験なしの送信時②のグラフでは、4がまず多く、次いで2、3、6となっている。どちらのグラフからも、本授業を通して、考えが深まったり、知識を増やしたりした児童が多かったことが分かる。とくにSNS経験のなかった児童においては、映像視聴と話し合い活動による葛藤場面の疑似体験を通して、より具体的に思いを深めることができたようである。

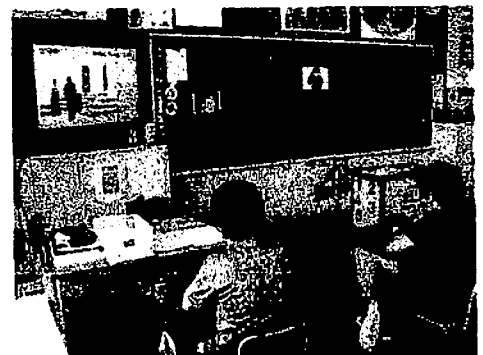
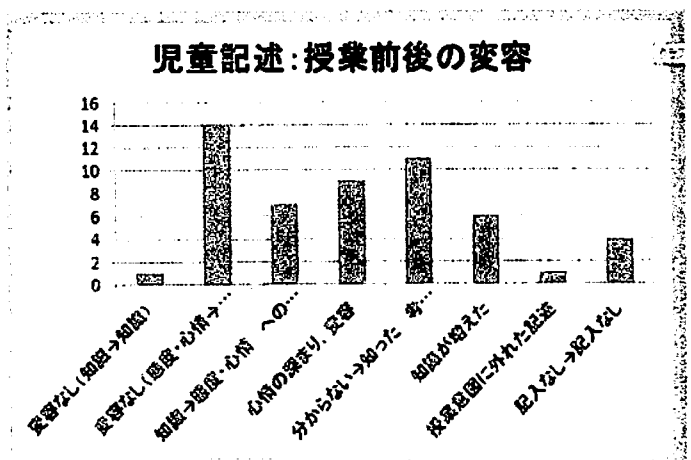
右図は授業展開した本学級児童の類型化のグラフであるが、送信時①図と同じように、2「変容なし」が突出している。これは、授業前から「相手の気持ちを思いやって行動する」という考えが既に身に付いていた児童が多かったためである。

注目すべきは、「3：変容あり（知識→態度・心情）」、「4：変容あり（心情の深まり）」、「5：変容あり（分

らない→知った・考えた）」である。これらの変容は、授業で考えを深めたことで、「個人情報を出さない」などの危険回避のための知識等から、秘匿性があり顔も合わせられないネットのコミュニケーションでも、相手を思いやって行動する必要があるという考えに至ったからである。意味のある変容であるといえる。

さらに、態度・心情面で変容があまり認められなかった1、6、8の類型に入る児童でも、授業の感想の記述では、相手を思いやって行動することの大切さについて触れる児童が多かった。（例：p 9一覧におけるNo.11やNo.27の児童感想など）

受信時においては、SNS経験の有無を問わず、2「変容なし（態度・心情→態度・心情）」、4「心情の深まり、変容」が多くなっている。今回の映像資料は友だちからメッセージを受けとったときに悩む場面が重点であり、送信時の考察と同様に、映像視聴と話し合い活動による葛藤場面の疑似体験を通して、より具体的に思いを深めることができたためであると考えられる。



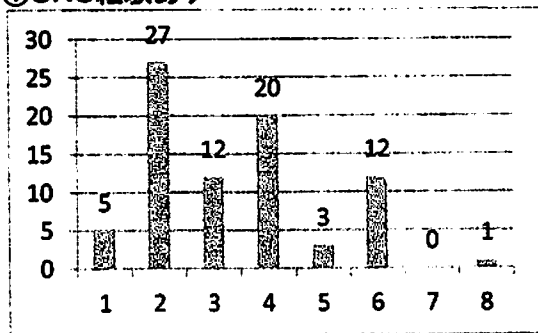
# 児童用アンケート集計結果（事前・事後比較）

## 類型化

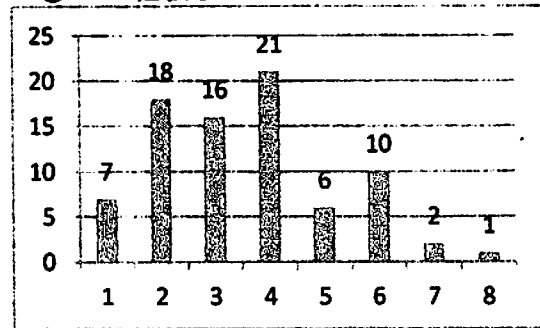
- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1 変容なし(知識→知識)       | 5 分からない→知った 考えた    |
| 2 変容なし(態度・心情→態度・心情) | 6 知識が増えた           |
| 3 知識→態度・心情 への変容     | 7 授業と関係のない意図のずれた記述 |
| 4 心情の深まり, 変容        | 8 記入なし→記入なし        |

人にメッセージを送るとき、どんなことに注意しますか。

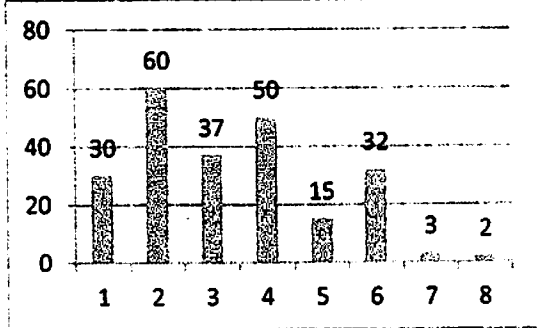
①SNS経験あり



②SNS経験なし

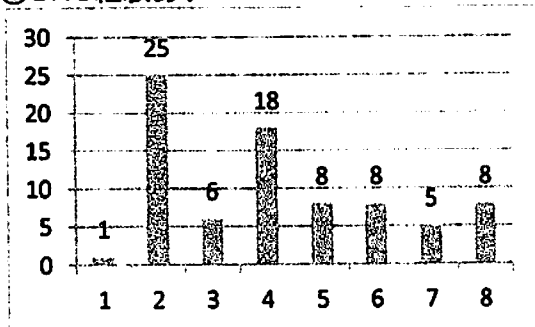


③全体(上記①②に加えて, SNS経験無回答を含む)

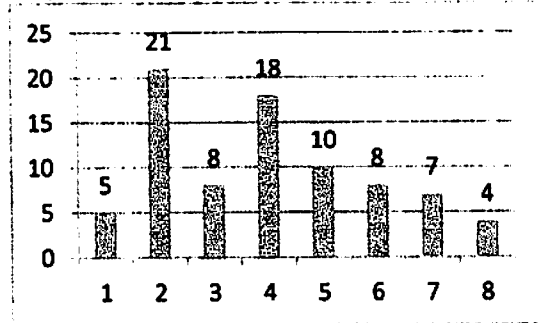


メッセージを受けとったとき、どんなことが気になりますか。

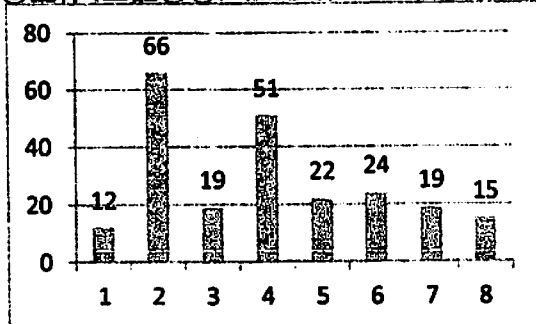
①SNS経験あり



②SNS経験なし



③全体(上記①②に加えて, SNS経験無回答を含む)



〇〇小学校

6年1組

- 隠匿化  
 1 内容なし(知因→知因) 5 分からない→知った 奇入た  
 2 内容なし(態度・心情→態度・心情) 6 知因が増えた  
 3 知因→態度・心情 への内容 7 投票と関係のない意図のずれた記述  
 4 心情の漏れり、内容 8 記入なし→記入なし

児童	SNS有無	選るとき		受け取ったとき		投票回数	
		内容	送信	知因	事後		
1	1	個人情報を書かないようにする。写真などを載せない。	いじめにつながることを書かない。	3	どんなことが書いてあるか気になる。	2	たかさんの人が仲間はずれにされて、自分もそれなら少し悔しいと思った。
2	3	話っていないことと書いてはいけないことの違いを自分の中ではっきりさせて、書いてはいけないことをグループラインなどで話していたら、ちがう話に変わる。	友だちが悪口を書いたら、その悪口を面白い話にそらす。	2	本当にそう思っているか。	4	今日の授業で、自分もスマホを持っているから、「ちょっとあやしいな」と思った。グループに招待されても理由をつけて入らないようにする。など、テレビで見たこと以外にもいろんな理由があって、けっこう考えられて、これからのことに勉強になった。
3	2	ひどい言葉を送らない。	相手が傷つかないようにする。	3		8	スマートフォンは、相手の送った意見が分かりづらい。
4	1	人が傷つくことを送らない。	相手の気持ちを考えて送る。	2	今送ったことが人を傷つけていないか。	2	自分は相手が嫌なことを送ったつもりはないけれど、表情が見られないから相手には嫌なことを送られていると思われてしまうことがあるんだなと思った。
5	2	人を傷つけることは書かない。他人や自分の個人情報を伝えない。	人を傷つけたり、誤解されたりしないように気を配る。悪口等について、「〇〇もそう思うよね。」というところは絶対に書かない。	3	特になし	5	スマートフォンには、対面ではない問題点があると思ってる。スマホの問題点を解決するために、さらなるよい技術の開発が必要だと考える。
6	2	わからない	相手の気持ちも考えて送る。トラブルになるようなことは送らない。	5	わからない	5	グループに合わせるだけでなく、みんなに理解合うことも大事だなと思いました。これからは、そういうトラブルに気を付けたいなと思いました。
7	2	悪口や嫌なことを送信しない	人の悪口はなるべく書かないようにする。仕方ないときだけ、グループのみに送る。	4	メールを送信した人の性別や性格	4	やっぱり、友だちなのにグループから外すことは悪いと思う。スマホは、欠点もあり、いいところもあるんだと思った。
8	3	人に嫌なことを送らないようにする。	いまま、どんなことを伝えたいのかを相手に分かりやすく伝えるようにする。	4	わからない	4	ちがうところでグループ(チーム)をつくって、仲間はずれにされちゃうから怖い。
9	3	相手が腹を立てるようなことを送らない。	悪口がなくても、ひどいメッセージを送らないようにする。	2	記入なし	8	スマホを使うときは、メールなどを送るときに気を付けておこうと思った。
10	1	個人情報をあげない。	個人情報、悪口を書かない。	3	わかりません	7	相手の顔が見えていないので、相手がいやがることを書いたり、しないようにする。便利だけれど、気を付けてこれから使うようにする。
11	3	悪口を書かない。	悪口を書かない。個人情報を書かない。	6	悪口を書かれていないか。住所を特定されていないか。	1	もしスマホで〇〇ってやだよ。とか書かれても、返信しないで、自分の口で「ダメだよ、そういうことは。」という。
12	1	人の傷つくことを送らない。	人の傷つくことを書いていないかを注意している。	2	わからない	8	スマホは、少し怖いと思いました。自分が知らないうちに、悪口とか書かれている。文字など、どういう気持ちで送信しているか考えたい。
13			相手の悪口を書かない。				友だちをいじめたり、仲間はずれにしないと思った。いじめが始まったら、自分から「やめなよ、と書いた方がいいと思った。
14	3	不審音に気を付ける。	仲間はずれにされるような言葉を書かないようにする。	3	個人情報に気を付ける。	9	Lineでは、友だちにグループから外されたり、いじめの言葉を書かれたりするのが分かった。
15	2	悪口や人の嫌なことを書いたりしない。相手や見る人が傷つかないように注意しながら書く。	大切なのは、みんなが書いていても他の人に伝わらない。いじめにつながることを、人がいやることは絶対に書かない。	4	自分や他の人の悪口を書かれていないか。どんなこと(内容)が書かれているか。	2	LINEなどで人の悪口を言うだけで仲間はずれなどのいじめが始まりそうになるから、できるだけ悪口は書かないようにする。
16	3	いやなことを書かない。	人の悪口を書かない。	2	自分や相手の悪口がないかどうか。	2	スマホを使うときに気を付ける。
17	1	相手や見る人が傷つかないように注意している。	人がいやがること、いじめにつながることを書かないこと。	4	どんなことを書いているか気になる。	4	スマホでLINEを使うときは、絶対に仲間はずれをせず、自分だけを守るために思っている悪いことを書かさない方がいい。
18	3	わからない	文字だけで送らないで、絵文字を使って自分の気持ちを伝える。	5	分からない	8	文字だけで送らないで、自分の気持ちを伝える絵文字を使った方が相手に伝えやすくなるのが分かった。ターゲットの悪口を言うグループを使わない。
19	3	記入なし	人の悪口、相手を不快にさせないか。	5	わからない	5	相手の気持ちを考えながら、悪口を防ぐ。
20	1	相手が怒ら込んでしまうこととかは、絶対に送らない	相手が傷つくことは、送らない。	2	悪口を送られてこないか。どんなことが送られてくるのか。	2	一人をハブってグループを作り、悪口を言うサイトなどもいるんだと思った。自分はそんなことを絶対にしてはいけないと思った。
21	1	個人情報を書かない。写真をのせない。	メッセージを送るときに、みんなにとって悪口じゃないか注意して送る。	3	記入なし	5	ラインやメールをやっているときに、友だちを仲間はずれにしたいなと思った。
22	1	相手が誤解して傷つかないようにする。	分かりやすい言葉で送る。	2	わからない	8	スマホは持っているから便利だけど、注意しながら使わないといけないなことが分かった。
23	3	いやな言葉を使わないこと。	トラブルのもとになる言葉やスタンプを使わないこと。	6	いろいろなことを知れて、いい気分や悪い気分にもなる。	4	いろいろな人の気持ちをよく知れて、自分は注意しようと思えた。
24	3	個人情報を送らない。悪口を送らない。	悪口を送らない。かんちがいされるようなメッセージを送らない。絵文字を使う。	6	だれかの悪口が送られていないか。	4	スマホを持っていないが、スマホを買ってもらって、こんなトラブルにまきこまれたら、どうしたらいいか分かった。
25	2	しつれない言葉やおこらせ言葉。ふゆかいになる言葉を使わないようにする。	人を傷つける言葉を送らない。悪口を書かない。人をほめるような言葉をかける。	6	たまに、人をふゆかいにさせたり、気分が悪くなる言葉が来る。	2	スマホのラインなどは、よくよく考えないと怖いなと思った。ラインでは、自分の意思をちゃんと持つ。
26	1	個人情報をあげない。	表情が分からないから、文字だけでなく、スタンプ、絵文字を入れるようにしている。	6	わからない	5	スマホを探しなあと思っていたけど、トラブルが起きやすく、使うときは気を付けなければいけないなと思った。
27	2	人を傷つけないようにする。個人情報を書かない。	人の気持ちなどが分からないから、なるべく絵文字やスタンプを送る。	6	わからない	5	相手の気持ちや表情などを考える。
28	2	ひどい言葉を使わない。	人を傷つける言葉は使わない。	2	わからない	5	何を言っているのかを考える。

## (2) 教師アンケート (p 4 授業後の感想) から

教師アンケートの「ココロ部の授業を実践してみてどうでしたか。」の回答は、グラフから明らかなように、「やりやすい」という意見が大多数であった。理由の記述からも、自ら授業を実践した実感からも、「問題点をとらえやすく考えやすい映像資料であること」、「友達グループのトラブルという身近な素材であること」、「葛藤場面があること」などが素材の利点となり、話し合い活動が活発化し、友だちの意見との異同に気付く中で児童自らが自然と考えを深められたことなどが授業の充実感につながったものと考えられる。

児童にとっても、素材が「同調する・勇気をもって反対する・でも、自分が仲間はずれにされたら…」というモラルジレンマ的な内容であり、「人に悪口を言ってはいけない」という知識は既に得ていたものの、同調して言わないと自分が仲間はずれになってしまうかもしれないという不利益があることから、はっきりとした立場をとれない切実な問題であり、意見が割れ、話し合いが活発化し、充実感を得たようである。児童の活発に意見を述べる姿を見て、情報モラル授業に苦手感を感じている教師が、「やりやすい」という実感を得たことが、地域に情報モラル授業を広げる大きな成果であると言える。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- 情報発信に関する実態調査をもとにした授業実践を通して、映像資料が有効であり、児童の判断力・情報活用能力を育成することができた。
- 映像視聴に加えて、話し合い活動による葛藤場面の疑似体験を通じたことで、より具体的に思いを深めることができた
- 映像教材であるがゆえに、教師も児童も取り組みやすく、教師が苦手とする情報モラル授業を地域に広げる一助となった。

### (2) 課題

- こわいという感想をもち、情報コミュニケーションツールへのイメージを低めた児童も数名いた。こわさも己を律する原動力とはなるが、主体的に活用していこうとする力の育成も重要である。情報モラル授業がこの1時間のみで完成できるというわけではない。計画的・継続的な取り組みが必要である。
- 地区として情報モラル授業をいくつか形作ってきて成果をあげたが、系統立てて年間計画等にしっかりと組み入れるところまでは至っていない。
- 映像資料の有効性は得られたので、他の映像資料も発掘・開発し、地域の年間計画に組み入れていく必要がある。

研究協力 旭市立中央小学校 旭市立萬歳小学校 旭市立嚶鳴小学校  
旭市立干潟小学校 旭市立琴田小学校 旭市立中和小学校  
銚子市立春日小学校 銚子市立船木小学校

情報モラル教育 (文部科学省)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/056/shiryo/attach/1249674.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/056/shiryo/attach/1249674.htm)

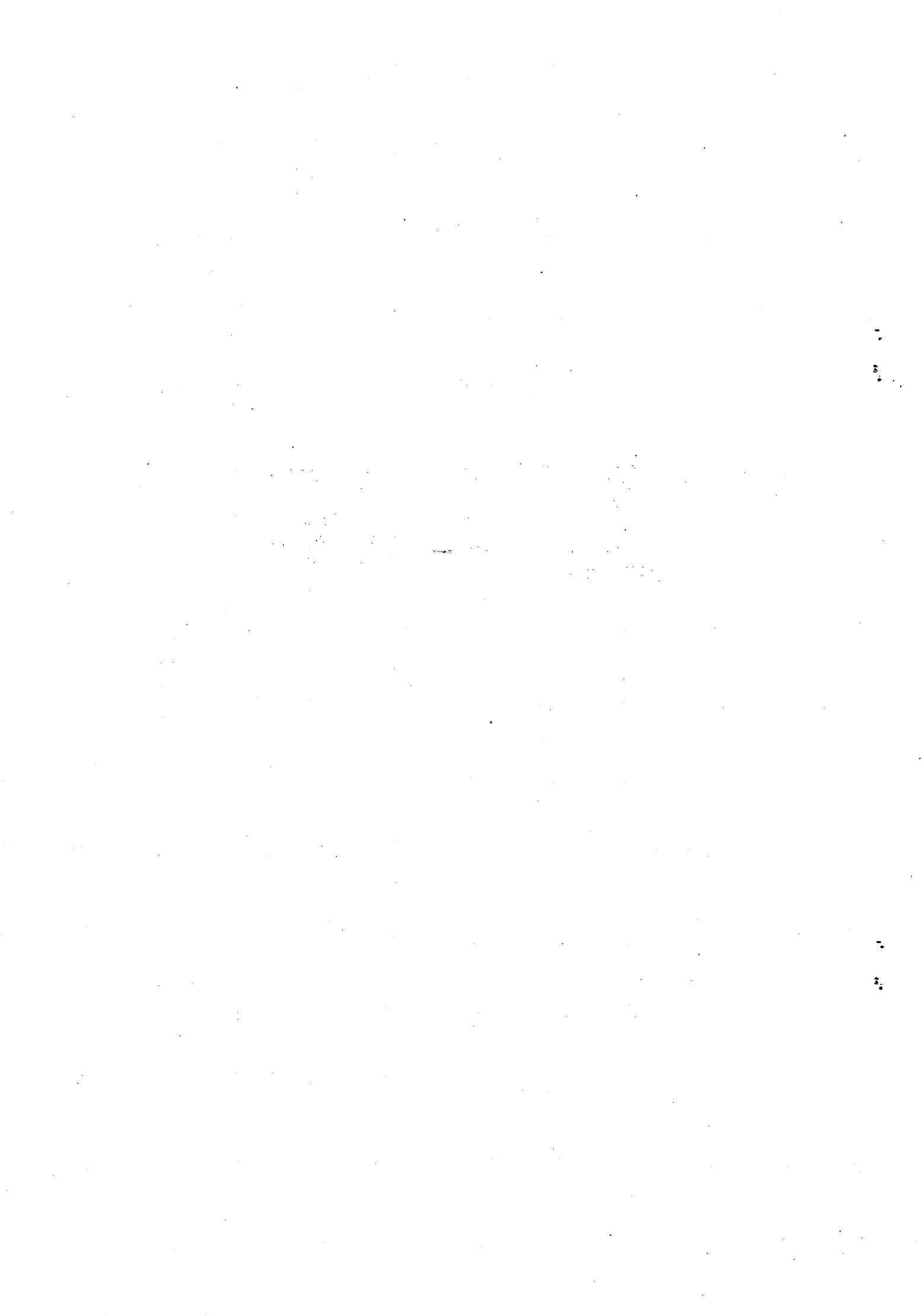
やってみよう、情報モラル教育

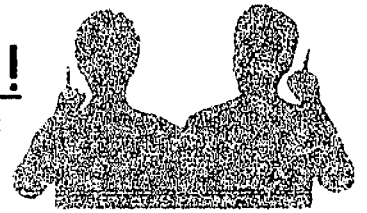
<http://kayoo.org/moral-guidebook/nerai/nerail.html>

総務省 平成28年版 情報通信白書

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h28/html/na000000.html>

# 資料編





## 1. 本時のねらい

コジマくんが無料通信アプリのグループトークのやり取りで悩む姿を通して、相手が見えないという特性に気付くとともに、本当の友達・友情とはなにか考えることができる。

## 2. 本時の展開 (例)

作成：札幌市立新琴似北小学校 教諭 安井政樹

時間の目安	主な学習活動と発問 (○=発問) 予想される児童の思い (◆=児童)	指導上の留意点
-------	---------------------------------------	---------

### 1. スマホや無料通話アプリの使用経験や子どもの思いを語らせる。

- |    |   |   |
|----|---|---|
| 3分 | <ul style="list-style-type: none"><li>・便利</li><li>・スマホがほしい</li><li>・連絡がすぐとれるからよく使う。など</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・スマホや無料通話アプリについて、児童の使用経験や思いなどを事前にアンケートで取ったうえで話題にし、意識を向けてから視聴させるとよい。</li><li>・必要に応じて、無料通話アプリについて簡単な説明をしたうえで番組を視聴させる。</li></ul> |
|----|---|---|

### 2. 「みんなに合わせる『友情』」の前半を視聴して、コジマくんの悩みについて話し合う。

- |    |                         |                                  |
|----|-------------------------|----------------------------------|
| 5分 | ・コジマくんの立場に立って、番組をみましょう。 | ・コジマくんの立場に立って番組前半(5分8秒まで)を視聴させる。 |
|----|-------------------------|----------------------------------|

▶ 番組を視聴する

#### 5分 ○コジマくんは何に困っているのでしょうか。

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ナナミのことをどう言おうかで悩んでいる。</li><li>・ナナミがかわいそうだけど、それを言ったらみんなに嫌われそう。</li><li>・言ったほうがいいけど、なんか言にくい。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・写真やイラストをダウンロードしておき、コジマくんが困っている状況を整理する。</li><li>・ナナミとコジマが仲の良い友達であることを押さえておく。</li><li>・直接言えばよいのに、何で言わないのだろうという考えが出るのが予想されるが、それはどうしてそう思うのか、またあとで聞かせてと子どもの声を大事にしつつ、今は、コジマくんの悩みに注目をさせる。</li><li>・悩みの基は「ナナミのことを守ろうとするか」と「みんなに合わせるか」であることが分かるように構造的に板書していく。</li></ul> |
|--|---|

#### 7分 ○コジマくんはどうしたらよいと思いますか。理由もあわせてワークシートに書きましょう。

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ナナミちゃんは友達を馬鹿にするつもりで言ったわけではないのだから、みんなにそれ言ったほうがいい。</li><li>・みんなに合わせないと自分も仲間外れにされそうだから、言えないかもしれない。</li><li>・友達なんだから、みんなにそういうのはやめようといったほうがいい。</li><li>・ナナミちゃんにそういうことを書くのはやめたほうがいいって教える。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ワークシートに自分の考えを記入させる。</li><li>・小グループや全体で意見交流を行う。</li><li>・行動の選択の理由を聞き合うことで自分の大切にしたい考えを明確にさせる。</li><li>・「友達だから」というような友情をキーワードとして、切り返しの発問をしていく。</li></ul> |
|--|--|

時間  
目安

主な学習活動と発問 (○=発問)  
予想される児童の思い (◆=児童)

指導上の留意点

### 3. 後半を視聴して、感じたことを話し合う。

5分

- ・番組後半を視聴させる。

5分 ○番組後半を見て、どんな感想をもちましたか。

- ・次々、仲間はずれにしていくのはよくない。
- ・自分もされたら困るから、みんなに合わせちゃうかもしれない。
- ・同じ教室にいるのだから、直接話せばいい。
- ・本当の友達なら、やめようって言ったほうがいいと思う。

- ・いろいろな視点からこの問題についての意見を言わせることで、スマホや無料通話アプリの問題点を意識させる。
- ・学級の実態に応じて、ワークシートを活用して響かせてから交流してもよい。

5分 ◎なぜ、スマホだと次々に悪口を言ったり仲間はずれにしたりできるのだろう。

- ・スマホを使うと、相手が見えないから、何でも言えちゃう。
- ・読む人のことを考えなきゃいけないと思う。
- ・相手がいることを忘れてはいけない。
- ・スマホを使うときも、直接会っているときと同じで、相手のことを考えたほうがいい。
- ・逆に、ダメなものはダメって直接は言いにくくても、スマホだと伝える時もあると思う。

- ・なぜ、メールやアプリだと悪口が次々言えるのかを考えさせ、相手が見えないというコミュニケーションツールの特性についても気付かせる。
- ・直接話すことの良さや、メールやアプリでは相手の顔が見えないけれども、相手がいることを忘れてはいけないということにも触れたい。
- ・単にスマホや無料通話アプリの使い方の学習で終わることがないように、なぜそういう行動をとるべきなのかという心情面をクローズアップするように心がける。
- ・面と向かって言えないこともつついづい言いやすくなってしまいうということに気付かせた上で、友達として何が大切なのかを考えさせたい。
- ・ダメなものはダメって言いにくい子の悩みにも共感しながら、発言を促す。

### 4 今日の学習から考えたことをまとめる。

10分 ○今日の学習から「友情」について考えたことをワークシートに書きましょう。

- ・本当の友達なら、ダメなものはダメって言えるようになりたい。
- ・スマホを使うときも、友達のことを考えられるようになりたいし、相手が見えないからって、仲間外れとかにはしないようにしたい。
- ・スマホは便利だと思っていたけど、気を付けないといけないなあと思った。

- ・学習の振り返りとして考えたことをワークシートに響かせる。
- ・本時のねらいに迫る振り返りを書いている児童を意図的に取り上げて紹介したい。



# 事前アンケート

## ココロ部!


氏名 ( )

「みんなに合わせる'友情」」

投票の前に、ネットやスマートフォンについて、いくつか聞かせてください。

1	スマートフォンを持っていますか。 ( ) ①持っている→2①へ ( ) ②持っていない→2②へ
2	【①持っている人】
①	スマートフォンをどのようなことに使っていますか。(複数選択可) ( ) ①ゲーム ( ) ②カメラ ( ) ③音楽 ( ) ④検索・調べもの ( ) ⑤動画※Youtubeなど ( ) ⑥ラインやメール ( ) ⑦その他 ( )
2	【②持っていない人】
②	スマートフォンがほしいと思いますか。 ( ) ①ほしい→2③へ ( ) ②ほしいと思わない→3へ
2	スマートフォンをどのようなことに使いたいですか。(複数選択可)
③	( ) ①ゲーム ( ) ②カメラ ( ) ③音楽 ( ) ④検索・調べもの ( ) ⑤動画※Youtubeなど ( ) ⑥ラインやメール ( ) ⑦その他 ( )
3	スマートフォン以外で、家でインターネットを利用していますか。 ( ) ①利用している→4①・4②へ ( ) ②利用していない→5へ
4	何を使って、インターネットを利用していますか。
①	( ) ①タブレット ( ) ②ゲーム機 ( ) ③パソコン ( ) ④その他 ( )
4	インターネットでは、どんなものを利用していますか。
②	( ) ①動画 ( ) ②ショッピング ( ) ③マンガ ( ) ④掲示板 ( ) ⑤調べもの ( ) ⑥学習 ⑦その他 ( )

(3)

5	家庭では、スマートフォンやネットを利用するときのルールがありますか。 ( ) ①ある→7へ ( ) ②ない→8へ
6	どのようなルールがありますか。(自由記述)
7	日記やメッセージなどを通じて人とつながり、交流できるSNS (ラインやツイッターなど) を使ったことがありますか。 ( ) ①使ったことがある ( ) ②使ったことはない
8	人とつながり、交流できるSNS (ラインやツイッターなど) などで、人にメッセージを送るとき、どんなことに注意しますか。(使ったことがなくても考えましょう)
9	人とつながり、交流できるSNS (ラインやツイッターなど) などで、メッセージを受けとったとき、どんなことが気になりますか。(使ったことがなくても考えましょう)
	
10	いちばん近い考えに○をつけましょう。 あなたには、A君、B君という同じくらい仲のよい2人の友達があります。今日、A君から「最近、Bってうざいよね。」というメールが来ました。どう返信しますか。 ( ) ①A君に反対する。例)「そんなこと言ったら、B君がかわいそうだよ。」 ( ) ②A君に賛成する。例)「そうだよね。」 ( ) ③どうしたらよいかわからない。返信しない。

事後



ココロ部!

氏名 ( )

「みんなに合わせる‘友情’」

- 1 人とつながり、交流できるSNS（ラインやツイッターなど）などで、人にメッセージを送るとき、どんなことに注意しますか。（※いくつでも）
- 2 人とつながり、交流できるSNS（ラインやツイッターなど）などで、メッセージを受けとったとき、どんなことが気になりますか。（※いくつでも）

(4)



授業



ココロ部!

氏名 ( )

「みんなに合わせる‘友情’」

○コジマ君は、この後どうしたらよいでしょう？理由も考えてみましょう。

Blank response box for the first question.

○後半をみて、思ったことを書きましょう。

Blank response box for the second question.

○今日の授業の感想

Blank response box for the third question.



# ココロ部!

氏名 ( お名前いりません )

「みんなに合わせる『友情』」

## 教師をとりまく環境と意識

1	情報モラル授業を行っていますか。 ( ) ①道徳で行っている ( ) ②学活で行っている ( ) ③総合で行っている ( ) ④外部講師を依頼して実施している ( ) ⑤あまり行っていない
2	情報モラルの授業の素材は、何を利用していますか。 ( ) ①映像教材 ( ) ②道徳資料 ( ) ③インターネット資料やドリル ④その他( )
3	情報モラル授業は得意ですか。 ( ) ①得意 ( ) ②苦手
4	情報モラル授業で、どんなことを指導してほしいですか。指導しますか。
5	児童生徒のネット利用で、困ることはどんなことですか。

## ②事後

6	ココロ部「みんなに合わせる『友情』」の授業を実践してみて、どうでしたか。 ( ) ①やりやすい ( ) ②やりにくい
7	それは、なぜですか。or感想・ご意見。 (自由記述)

(5)